

家 庭 科



【授業改善に向けて】 家庭 1

【学習指導要領の趣旨を生かした家庭科の実施のために】 家庭 2

【実践事例1】 家庭 3

第6学年 題材名「楽しくソーイング」

【実践事例2】 家庭 8

第6学年 題材名「くふうしよう おいしい食事」

< 家庭科 >

【授業改善に向けて】

1 家庭科における主体的・対話的で深い学びについて

これまで家庭科では、実践的・体験的な活動を通して日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、それらを活用して身近な生活の課題を解決しようと主体的に学習に取り組む児童の姿を求め、「習得と活用」の関係を明確にした授業づくりを行ってきた。さらに、家族・家庭生活の多様化やグローバル化・少子高齢化社会等、児童を取り巻く今後の急激な変化に主体的に対応できるよう、実践的・体験的な学習活動を通して、科学的な理解を図り、技能を身に付け、生活の中の問題を解決し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成しなければならない。

家庭科では「主体的・対話的で深い学び」の実現のために次のような学びを取り入れていく。

(1) 「主体的な学び」

題材を通して見通しをもち、日常生活の課題発見や解決に取り組んだり、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組んだり、実践を振り返って新たな課題を見付け、主体的に取り組んだりする態度を育む学びである。そのため、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長を自覚して実践する喜びに気付いたりすることができる活動などを充実させることが重要である。

(2) 「対話的な学び」

児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々などとの会話を通して考えを明確にしたりするなど、自らの考えを広げ深める学びである。

(3) 「深い学び」

児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、更に家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学びである。

家庭科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のためには、題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすることが必要である。その際、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図っていく。「生活の営みに係る見方・考え方」については、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」としている。例えば、家族・家庭生活では主として「協力・協働」、衣食住の生活では主として「健康・快適・安全」や「生活文化の継承・創造」、消費生活・環境では主として「持続可能な社会の構築」を考察の視点としている。

2 授業改善の視点

<視点1> 学びをつなぐ年間指導計画の作成

- 基礎・基本の定着を図る題材構成・配列の工夫
- 小・中の連続性や関連・系統性を明確にした指導計画の工夫

<視点2> 実践意欲を高める学習指導の工夫

- 実生活との関連を図った実践的・問題解決的な学習の工夫
- 実践的・体験的な活動を通じた主体的・協働的な学習の工夫

<視点3> 学んだことを生かして活用する楽しさを実感できる評価の工夫

- きずなを大切に、相手意識をもって活用する楽しさが実感できる評価計画の工夫
- 自分の成長を実感する評価の工夫

【学習指導要領改訂の趣旨を生かした家庭科の実施のために】

1 移行措置の内容

家庭科では、移行期間中から「新学習指導要領の規定によることができる」としており、各学校の判断によりその全部または一部について新学習指導要領による教育課程を編成・実施することができる。

実施に当たっては、現行学習指導要領、または新学習指導要領のいずれによる場合でも、今回の学習指導要領の改定の趣旨を生かした指導となるよう配慮する必要がある。

2 教育内容の主な改善点

(1) 内容についての留意点

- ① 小学校家庭科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に沿って明確化し、教科の目標について改善を図った。
- ② 現行の4つの内容構成から、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の3つの内容構成とし、各内容及び各項目の指導の系統性を明確にした。
- ③ 各内容の各項目は、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に係る指導事項アと、アで習得した知識及び技能を活用して思考力・判断力・表現力等を育成することに係るイで構成することとし、育成する資質・能力を明確にした。
- ④ 内容の新設や取り扱いに留意し、教材開発が求められる点は以下の通りである。

- A (3) 幼児または低学年の児童、高齢者など異なる世代の人々との関わり
 - A (4) 「家族・家庭生活のについての課題と実践」(新設)
 - B 日本伝統的な生活
 - B (2) のアの(エ) ゆでる材料として青菜やじゃがいも
 - B (3) のアの(ウ) 献立を構成する要素(主食、主菜、副菜)
 - B (5) 日常生活で使用する物を入れる袋などの製作
 - B (6) 暑さ、寒さ、通風・換気、採光及び音
 - C (1) のアの(ア) 売買契約の基礎

(2) 指導計画作成上の留意点

家庭科は、目標や内容を2学年まとめて示しているため、各学年でどの内容を扱うのかは、児童や学校、地域の実態に応じて様々な工夫が考えられるが、円滑な移行を行うためには、2学年を見通した指導計画が必要である。

特に、平成31年度の第5学年については、全面実施となる平成32年度を見通して、ガイダンスも含めて新学習指導要領の内容を卒業までに履修できるよう、2学年を見通した指導計画を作成する必要がある。

題材の構成に当たっては、児童や学校、地域の実態を的確にとらえるとともに、内容相互の関連を図り、指導の効果を高めるようにする。また、他教科等との関連を明確にするとともに、小学校・中学校・高等学校の学習の系統性を踏まえた指導を行うようにする。

【実践事例1】第6学年 題材名 楽しくソーイング

1 題材の目標

- 布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、製作する楽しさや活用する喜びを味わっている。
(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 製作する物やその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。
(生活を創意工夫する能力)
- 目的に応じて手縫いやミシンを用いた直線縫いで製作することができる。
(生活の技能)
- 製作に必要な材料や用具の安全な使い方が分かり、製作手順について理解している。
(家庭生活についての知識・理解)

2 題材の展開にあたって

本題材は、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題をもって、製作に必要な材料や手順、製作計画、用具の安全な取り扱いに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、製作計画を考え、製作を工夫することができるようにすることをねらいとしている。製作するものについては、日常生活で使用する物を入れる袋などとし、ナップザックや手提げ、巾着などが考えられる。

児童は5学年で、手縫いによる小物作りやミシンを使つてのエプロン製作を学習している。小物作りでは、ぬいしろを考えた大きさの決め方を学習し、エプロン作りでは三つ折による布端のしまつの仕方を学んだ。意欲的に取り組んできたが、縫う順序を間違えてやり直したり、三つ折の仕方に問題があり、きれいな仕上がりにならなかったりと苦勞する姿も見られた。これらの経験を生かして手順や縫い方の工夫の意味を考え、課題をもって取り組むことができると考える。

〈視点1〉学びをつなぐ年間指導計画の作成

- 手作りしてもらったナップザックや手提げなど、生活の中で使っている布製品の袋を観察する活動を取り入れ、使いやすさや丈夫さ、楽しさなどに気付きながらできあがりのイメージをもって製作できるようにする。また、5学年でのエプロン製作で学んだことを確認しながらすすめる、知識や技能の定着を図る。

〈視点2〉実践意欲を高める学習指導の工夫

- 手縫いやミシン縫いの経験から、課題をもって工夫できるようにする。そのために、作りたいものが同じ児童でグループを作り、交流しながら計画を立てたり製作したりするようにし、相互評価を生かして改善、修正できるようにする。また、実物や段階標本などを準備し、製作手順や縫い方の特徴を考えることができるようにする。

〈視点3〉学んだことを生かして活用する楽しさを実感できる評価の工夫

- 製作するものに関しては、何に使うのか具体的な場面を想定して選ぶようにすることで、目的意識を高め、工夫の観点を定めることができるようにする。また、振り返りでは、使用した感想を交流することで、達成感や満足感、あるいは、新たな課題をもって次の製作への意欲を高めることができるようにする。

3 題材の指導計画（総時数10時間）

時 間	主な学習活動	評価規準 ・ 評価方法				授業改善 の視点
		家庭生活への関 心・意欲・態度	生活を創意工夫 する能力	生活の技能	家庭生活について の知識・理解	
1	○ 作りたい ものを考え、 形や大きさ を決める。	生活の中で 使う場面を想 定して作りたい ものを考えて いる。 ・行動観察				視点1 視点3
2 本 時	○ 製作計画を 立てる。		課題を設定 し、製作手順 や目的に応じ た縫い方を考 えている。 ・ワークシート		製作手順に ついて理解し ている。 ・ワークシート ・発言	視点2
3 4 5 6 7 8 9	○ 製作する。	作りたいも のへの思いを もち、製作す る楽しさを味 わっている ・行動観察	課題解決の ために縫い方 を工夫してい る。 ・行動観察	目的に応じ た縫い方がで きる。 ・行動観察	用具の安全 な扱い方につ いて理解して いる。 ・行動観察	視点1 視点2
10	○ 製作過程や 活用した結果 を振り返る。	手作りのも のを使う喜び を感じてい る。 ・発言				視点3

4 展開の具体例（2/10）

○ 学習のねらい

製作計画の立て方を知り、友達と検討し合いながら作りたいものの製作計画を立てることができる。

主な学習活動・内容	時間	○教師の支援 ※評価
1 本時の学習課題をとらえる。 どんな順序で、どんなことに気をつけて作ればいいのか。 縫う順序により見た目が違う様子	10	○ 縫う順序が違うものを比べたり、ぬいしろが小さい失敗例を提示したりすることで、製作計画の必要性を理解することができるようにする。 T 袋のわきと口では、どちらを先に縫ったらいいでしょう？ C どっちでもいいと思う。 C こっちは見た目が汚い。 C 口からほつれが丸見えだ。 C それはどっちを先に縫ったの？ C わきが先で口を後に縫わないと、見えるところがきれいにならない。 T ポケットや飾りはいつ付けたらいいでしょう？ C 先に付けないと付けづらくなってしまう。 C 5年生の小物作りでも、インシャルの飾りは先に付けたな。
2 製作手順と縫い方の工夫、留意点を考える。 (1) グループごとに計画を立てる。 〈手順例〉 ・できあがり線と裁ち切り線を決める ・しるしを付けて布を裁つ ・ポケットを表に付ける ・わきを縫う ・口を三つ折にして縫う ・ひもを付ける ・糸の始末をして仕上げる 気を付けることを確認し合う	20	○ 作りたいものが同じ児童でグループを編成し、検討し合いながら製作手順や工夫を考えることができるようにする。 〈視点2〉 大きさを決めるときに使った紙を活用する ○ 実物や段階標本などを準備し、製作手順や縫い方の意味を考えて、検討することができるようにする。 〈視点2〉 C まずはポケットを付けよう。 C わきは端から端まで縫うの？ C 三つ折にしないからぬいしろは2cmでいいよね。 C ひもは一番後で付ければいいよね。 C ひもの部分は丈夫にするために二箇所縫っているよ。

〈工夫・留意点〉

- ・ナップザックの口は紐がスムーズに通る太さにする。
- ・底にまちを付ける。
- ・ひもは返し縫をして丈夫に付ける。
- ・直線縫いをまっすぐに縫う。



提示した段階標本や実物

(2) 工夫や留意点, 相違点を交流する。 1 0

- ・口の縫い方の特徴
- ・ひもの丈夫なつけ方
- ・三つ折に必要なぬいしろの大きさ
- ・飾りを付ける工夫



まちの作り方を交流する

3 本時のまとめをし、次時の学習について見通しをもつ。

飾りは先に縫い付ける。
重いものを入れてもひもが取れないように二重に縫いたい。

- T ナップザックのわきはどこまで縫えばいいかな。
C 教科書に「口開き止まり」って書いてある。
C 見本を見ると手縫いもしてある。
C ちょっと難しそうだ。
T わきを縫うときに紐を通すための輪を一緒に縫う必要があるから気を付けよう。
C え？どういうこと？
C 裏から縫うから、こうして縫って表に返すと、ほら。
C あっ、すごい。



段階標本を観察する

- ※ 計画の必要性を理解し、製作の手順と縫い方の工夫、留意点を考えることができたか。
(ワークシート・発言)

- C 太鼓のばちを入れる袋の口は小さいね。ミシンで縫えるの？
C 手縫いでもいいと思う。
C 持つところのひもの長さが違うと感じが違うね。
C 飾りってどうやって付けるの？
C ミシンでそのまま直線縫いで付けられればいいと思う。
C まちはこうやって付けるんだ。

- 自分の課題の解決策になるように、具体的に書くようにさせる。

- いろいろな種類の布やひもなどを観察することで、どんな材料を準備すればいいか見通しをもつことができるようにする。

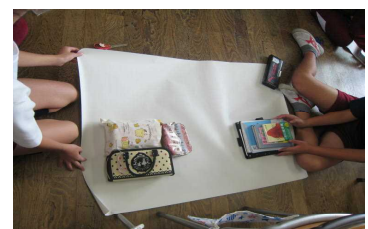
5 実践の考察（成果：○ 課題：●）

〈視点1〉学びをつなぐ年間指導計画の作成

- 家庭にある布製品の袋を持ち寄り、「どんな形のものがあるか」「どのぐらいの大きさか」「どんな持ち手か」「どんな布の種類か」「ポケットや飾りはあるか」などの視点で観察した。観察を通して自分が作りたいもののイメージをもつことができ、製作への意欲が高まった。
- 5学年でのエプロンの製作を振り返り、大まかな手順の確認と自分の課題をもつことができるようにした。真っ直ぐに縫えなかったことや縫う場所を間違えて縫い直したことを思い起こし、具体的に自分の課題をもつことができた。
- 5学年でのエプロン作りは三つ折による布端の始末だけであつたので、ランチョンマットや枕カバーなど、中表での製作を体験しておけば、さらにスムーズだと感じた。

〈視点2〉実践意欲を高める学習指導の工夫

- 日常生活の中で袋を使う場面と中に入れたいものを具体的に想定し、計画することで、工夫したいことが明確になり、意欲をもって製作することができた。
- 作りたいものが同じ児童でグループを編成することで、計画段階から検討し合いながら学習を進めることができた。特に大きさを決めたりひもの長さを決めるときには、お互いに見合っけ使いやすさや持ちやすさを話し合い、修正していた。
- 作りたい袋の種類では特に条件を設けなかったため、ふたつきのポシェットやファスナーを付けるなどの希望が出てきた。技能的に難しいことを理由に変更するようながしたが、チャレンジしたい気持ちもあったようだ。個の技能に応じた対応も検討が必要だった。



大きさを決める

〈視点3〉学んだことを生かして活用する楽しさを実感できる評価の工夫

- 袋を使う場や入れたい物が具体的であつたため、出来上がった作品を使用することを楽しみに学習を進めることができた。さらに使うに当たって、丈夫に縫えているか、見た目よく真っ直ぐに縫えているか、持ちやすいようなひもの付け方になっているかなど、自己評価や相互評価をしながら製作することができた。
- 題材の最後に、使ってみての振り返りをする時間を設けたことで、手作りのものを使用する喜びを実感することができた。家族からの称賛のコメントもあり、達成感をもつこともできた。中には、持ち手のひもをもう少し長くすると肩にもかけることができたことや、ポケットの大きさが大きすぎて中に入れると口が大きく開いてしまうことなど、さらに工夫や改善すべき点も見付かり、次の製作への課題につなげることができた。



裏表柄違いナップザック



花の飾りつき手提げ



ポケット付ポシェット

（文責 八巻 律子）

【実践事例2】第6学年 題材名 くふうしよう おいしい食事

1 題材の目標

- 毎日の食事に関心を持ち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。
- 調理に関心を持ち、日常よく使用される食品を用いた調理をしようとしている。
(家庭生活への関心・意欲・態度)
- 身近な食品を用いて、その材料に合った調理方法を自分なりに考えたり、工夫したりしている。
(生活を創意工夫する能力)
- 身近な食品を用いてゆでたりいためたりしておかずをつくることができる。(生活の技能)
- 栄養のバランスを中心に、1食分の献立を考えるとともに、食事の役割を考えることができる。
(家庭生活についての知識・理解)

2 題材の展開にあたって

本題材は、1食分の献立を考え、調理し、家族が喜ぶ楽しい食事を計画することをねらいとしている。主に、ご飯とみそ汁に合うおかずについて考え、主食・主菜・副菜を組み合わせることで、3つのグループの食品がそろるように、栄養のバランスのとれた献立を立てることができるようにする。また、新鮮かつ安全な食品の選び方や買い方を考え、自分や家族のことを考えて家庭生活をよりよくしようとする実践的な意欲を高めていく。さらに、楽しい食事をするための工夫について考え、食事が心をつなげる大切な役割があることを学んでいく。

児童の調理に関する興味は高いが、児童自らが台所に立って食事の手伝いをするということは少ない実態である。5年生で学習したゆで野菜サラダの実習では、学習後に家庭で実践する児童が多くなり、さらに、6年生で学習したいためにつくる朝食づくりの学習後は、栄養のバランスに気を配って主食に合ったおかずを考え、調理実習ができるようになってきた。調理実習を通して、調理に対する意欲や関心は高まってきている。

本題材では、材料に合った調理方法や調理時間を考え、料理の仕上がりを見通すための調理実験を取り入れ、家族が喜ぶ1食分の献立を考え、おいしいおかずを作ることができるようにしたいと考えた。

〈視点1〉学びをつなぐ年間指導計画の工夫

- 6年生での「いためてつくろう朝食のおかず」の学習を振り返りながら、発展的に学習を進める。これまでの調理技法及び知識を生かして、1食分の献立を立てる学習や、学習したことを家庭で報告したり実践したりする機会を取り入れ、日常生活とのつながりをもたせながら学習できるようにする。

〈視点2〉実践意欲を高める学習指導の工夫

- 教科書のおかずの例の写真を見ながら、どんな食材がどのような調理方法で調理されているのかを調べ、作ってみたい料理やその理由について話し合う。ここで、年間を通して手に入りやすく、調理方法が多様なじゃがいもについて触れ、じゃがいもを用いた調理への意欲を高めていく。学習後には、自分でも作れる料理を中心に、調理時間を見通したじゃがいも料理を含めた1食分の家族のための献立を立てる実践意欲を高めていく。

〈視点3〉学んだことを生かして活用する楽しさを実感できる評価の工夫

- 本時では、1食分の立てた献立の仕上がり時間が同じになると料理もおいしく食べられることから、調理方法にあう材料の調理の仕方（切り方、ゆで方）を実験を通して学ぶ。実験調理をすることで調理時間を見通し、調理計画に生かせると考えられる。更にチャレンジシートを活用して家庭からのコメントをもらうことによって、活用する楽しさを味わうことができるようにする。

3 題材の指導計画（１２時間）

時間	学習活動	○評価規準・評価方法				授業改善の視点
		家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解	
1	○ 毎日の食事に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方を考える。	毎日の食事に関心をもち、栄養を考えた食事のとり方をしようとしている。・行動観察 ・ワークシート			食事の役割や大切さについて理解している。 ・発言 ・ワークシート	視点1
2	○ 栄養のバランスを中心とした1食分の献立の考え方を知る。				栄養のバランスを中心とした、1食分の献立の立て方について理解している。 ・ワークシート	視点2
3・4	○ ご飯とみそ汁を中心とした主食・主菜・副菜を含めた1食分の献立を考える。		ご飯とみそ汁を中心とした栄養バランスのよい主食・主菜・副菜を含めた1食分の献立について考えたり、工夫したりしている。・ワークシート			視点2
5	○ 様々なじゃがいもの調理方法を知る。	様々なじゃがいもの調理方法を調べようとしている。・ワークシート				視点1
6 本時	○ 自分の作りたいじゃがいも料理に合った切り方やゆで方を調べる。		自分の作りたいじゃがいもの料理に応じた切り方やゆで方を考えている。 ・観察			視点2
7・8	○ 調理実習計画を立てる。		調理の仕上がりが同じになるように工夫して計画を立てている。 ・ワークシート・観察			視点3
9・10	○ 調理をする。	身近な食品を使っておかずをつくろうとしている。 ・観察		じゃがいもなど材料や目的に応じたゆで方いため方ができる。・観察		視点2
11・12	○ 家族のことを考えた1食分の食事の献立を考え、調理計画を立てる。	栄養バランスがある家族のための1食分の献立とその調理計画を立てようとしている。 ・ワークシート	これまでの実習を生かして調理の仕上がりが同じになるような調理計画を工夫することができる。 ・ワークシート			視点2

4 展開の具体例（6／12）

○ 学習のねらい

自分の作りたいじゃがいも料理に合わせた、じゃがいもの切り方、ゆで方を調べるができる。

学習活動・内容	時間	○教師の支援 ※評価
1 本時の学習課題をとらえる。 作ろうとするじゃがいも料理に合ったじゃがいもの切り方やゆでる時間を調べよう。 2 グループごとに調理実験をする。 (1) 自分たちの料理に合った切り方、ゆでる時間を考える。 (2) じゃがいもを切る。 ・乱切り ・半月切り ・短冊切り じゃがいもを切っている様子 (3) じゃがいもをゆでる。 ・水はじゃがいもがかぶるくらい ・沸騰するまでは強火，沸騰したら弱火 ・竹串がすっと入るまで ・沸騰してから竹串が入るまでの時間を計測 ゆであがったかを確認している児童 3 グループ内でじゃがいもの切り方やゆでる時間を話し合い，調理時間を検討する。 じゃがいもを試食して切り方やゆでる時間を話し合う児童	5 1 5 1 5	○ 前時に考えたじゃがいも料理を紹介させる。 C じゃがいものチーズ焼きです C ポテトサラダです。 C コーンとじゃがいもの醤油いためです。 ○ じゃがいも料理と他の献立の仕上がり時間が同じになるために，じゃがいもの切り方やゆでる時間を調べることを確認する。 ○ 教科書や完成調理の写真や家庭での調理経験から，料理に合ったじゃがいもの切り方を考えられるようにする。 C ポテトサラダは後でつぶすからそのまま切らなくていいよ。 C 焼くから輪切りがいいね。何センチかな。 C いためるから小さめにしようか。 ○ 実験の条件を統一する。 C もういいかな。竹串をさしてみよう。 C 堅い。半分に切ってしまう。ポテトサラダではつぶしちゃうからいいよね。 C まだちょっと堅い。 C 醤油炒めでは，後で炒めるのだから，堅くてもいいかな。 ○ 実験結果から，自分たちの調理に合ったじゃがいもの切り方やゆでる時間見通しをもてるようにする。 C ポテトサラダは，ゆでた後につぶすけれど，大きいままでは時間がかかるから半分にしてよかった。調理の時は早めにゆで始めるといい。 C コーンとの炒め物は，じゃがいもは堅めにゆでたいから，ゆでる時間は短くていい。 C 速くゆであがるように小さく切ったけれど，後から炒めるからもっと大きく切りたい。 ※ 実験調理の結果をもとに，調理に合ったじゃがいもの切り方，ゆで時間の違いを考えることができる。 (行動観察)

4 本時のまとめをし、次時の学習について見通しをもつ。 (1) 本時のまとめをする。 調理によってじゃがいもの切り方やゆで時間には違いがある。 (2) 次時の見通しをもつ。 ・調理計画作成	10	○ じゃがいもの切り方やゆでる時間について、調理ごとにまとめる。 C (じゃがいものチーズ焼きの児童) 切り方は、厚すぎても薄すぎてもだめ。少し堅めにゆでる方がいいと思います。 ○ 次時は、複数調理の仕上りの時間を考えて調理計画を立てることを伝え、本時の学習を生かせるように意欲付ける。
---	----	---

5 実践の考察（成果：○ 課題：●）

〈視点1〉学びをつなぐ年間指導計画の工夫

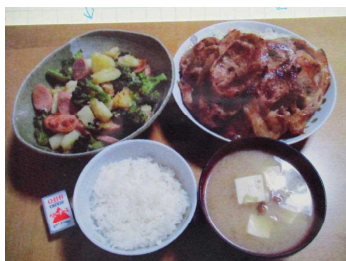
- 調理実験を題材の指導計画に設定したことは有効だった。じゃがいもの切り方やゆでる時間について調理実験で確かめたことで、調理について具体的にイメージすることができ、その後の調理計画もスムーズに立てることができた。
- 5学年、6学年と学習した食に関する集大成の題材である。これまでの学習を生かし、栄養バランスのとれた食事の大切さ、食材の違いによる調理方法を理解することができた。さらに家族のために家庭での実践を試みる児童が見られた。

〈視点2〉実践意欲を高める学習指導の工夫

- じゃがいもの調理実験をしたことで、調理に合った材料の切り方やゆでる時間について理解が深まり、自分でできるよりよい調理の方法に向けての意欲が高まった。

〈視点3〉学んだことを生かして活用する楽しさを実感できる評価の工夫

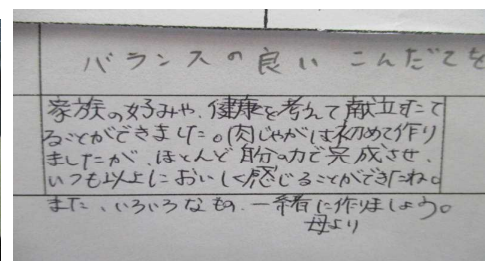
- 授業では、じゃがいも料理を中心に調理を学習した。その調理が主菜、副菜のどちらにあたるかなどの検討を行って、1食分の献立をじゃがいも料理を含めて立てることができた。また、チャレンジシートを活用して家庭からのコメントをもらうことによって、体にとって大切な栄養や調理に対して、さらに興味や関心が高まった。家庭での実践も意欲の高まりと考えられる。
- 学習を生かして、家族の好みを考えたり、旬を取り入れたりして自分で作れそうな献立を考えて、実際に調理したことを報告する児童もみられた。
- 学習したことをチャレンジシートを使って、家庭に報告させた。家庭科の時間に学習したことを家庭で話題にすることで、これからの家庭での調理の手伝いや食事作りにつなげていきたい。



家庭での実践例①



家庭での実践例②



家族からのコメント

（文責 古渡 裕子）